

卒業生の保護者の皆様へ

お子様の「卒業」、おめでとうございます。

桜の花芽も日ごとにふくらみ、春の訪れを感じる本日、第七十一回卒業式を挙行いたしました。本日は、かつて経験したことのない厳しい状況の中での卒業式となりました。来賓の方々、在校生、そして保護者の皆様のお席がかなわない中での開催であり、皆様の心中を察するに余りあります。本日は、その方々の気持ちも合わせて、教職員一同、精一杯の祝福の心を込めて、卒業生の皆さんを送り出させていただきました。

P T Aの役員の方々とは話し合った結果、保護者の皆様に、少しでも卒業式の生徒の様子を見ていただけるようにと、写真と動画の撮影を行いました。写真撮影は業者に依頼し、本日お子様にお渡ししたIDとパスワードで、後日ネットで閲覧と購入ができます。動画の撮影は本校教員が行い、3方向から撮影したデータをP T A役員の方にお渡しいたしました。ご覧いただければ幸いです。

卒業生には、式辞の中で次のような話をいたしました。

・本日のこの喜びは、皆さんの今までの努力の結晶であることは言うまでもありませんが、その陰には、皆さんを育ててこられた保護者の方々をはじめ、多くの皆様方の御支援と御協力があつたことを忘れてはなりません。深い感謝の気持ちを持ち続けることが、実りのある人生を築く第一歩となります。

・「前向きに生きる」ということについて。人生の長い道のりには、決まったコースはありません。目標に向かって、人それぞれ違った道のりを歩むことになるでしょう。時には、周りと比べて遠回りをしていくように感じて、現状に否定的になることもあるかもしれません。しかし、一直線にゴールに向かって人には見ることができなかった景色、遠回りをしたからこそ見ることができた素晴らしい景色というものがあります。今の頑張りが、必ず将来の自分を支えることになるかと信じて、毎日を肯定的にとらえて力に変えていく「前向きな生き方」をしてほしいと思います。

・百歳を超えても現役の医師として毎日挑戦を続け、数々の業績を残された日野原重明氏の言葉「Keep on going! (前に進み続けよう)」について。日野原氏が死の直前に命をかけて伝えたかったのは、どんなときにも、諦めずに前に進み続けてほしいという願いでした。また、別な言葉で「一歩踏み出せば見えてくる景色が変わる。行動こそが不安を打ち消してくれる。」とも言っています。前に進み続ける、そんな逞しい人間に成長してもらいたいと期待しています。

・「困難は、解決できる人にしかやっつけない。」ということについて。「困難」を「壁」という言葉に言い換えて、二人の偉人が人生での「壁」についてこう語っています。イチロー選手の言葉「壁というのは、越えられる可能性がある人にしかやっつけない。だから壁がある時はチャンスだと思ってる。」石ノ森章太郎氏の言葉「越えれば、そこには必ず新しい世界がある。その向こうはどうなっているのだろう、という好奇心で想像することが楽しいのだ。」 皆さんには、「壁」を恐れずに、それを力に変えていく逞しい生き方を身につけてもらいたいと期待しています。

・未来は皆さんの手にゆだねられています。変化に対応するだけでなく、これからは皆さんが新たなものや仕組みを考え、発見し、現実のものにしていくのです。そのためにこれからは大いに学び、力をつけてほしい、世界に飛び出し見聞を広め、存分に活躍してほしいと願っております。

保護者の皆様には、あらためて感謝をお伝えしたいと思います。この三年間、本校の教育にご理解とご協力をいただき、本当にありがとうございました。保護者の皆様から三年前にお預かりしました生徒達は、立派に成長し、巣立つことができました。「ご卒業おめでとうございます」と心から申し上げます。

令和二年三月六日

東京都立足立高等学校長

浅見 浩一郎